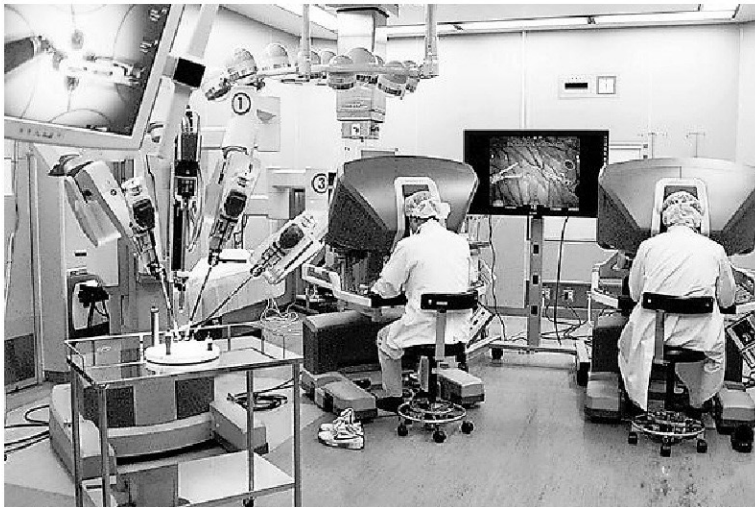


松波総合病院の手術支援ロボ 子宮全摘出にも利用

傷口が小さく抑えられ、術後の回復も早いなどの利点がある手術支援ロボット「ダヴィンチ」
＝羽島郡笠松町、松波総合病院（同病院提供）



前立腺がんなどの手術支援ロボット「ダヴィンチ」。県内で2番目に導入した松波総合病院（羽島郡笠松町）では、同ロボットを使った手術を始めて3年がたった。患者の希望も増え、1月には県内で初めて子宮全摘出手術にも用いられ、実績を挙げている。松波和寿副院長は「まだまだ知名度は低い。この素晴らしい医療をもっと多くの人に知ってもらいたい」と話している。

（玉田健太）

開始から3年 「患者により良い医療を」

ダヴィンチは、医師がカメラの映像を見ながら、メスなどを取り付けたアームを操作。人間の手首以上の可動域があり手ぶれもなく、精度の高い手術ができる。傷口が小さくなり、出血量や術後の痛みも少なくなる。

同病院は2010年12月にダヴィンチを導入。昨年2月には、二つの操作台を接続した新型を入れ、2人の医師で分担したり、同時に指導をしたりといった施術が可能になった。

国内では今のところ、ダヴィンチの保険適用は前立腺がんのみ。欧米などと比べて普及は遅れているという。松波副院長は「保険適用が拡大され、患者により良い医療を提供できる環境が整っていくといい」と今後に期待している。